

川越市児童館改修整備基本構想案（暫定）

目次

第1章 川越市児童館改修整備基本構想の策定にあたって

1. 本構想策定の背景と役割
2. 我が国の社会情勢
3. こども・若者・子育て世帯を取り巻く環境の変化
4. 国が推進するこども・子育て施策の取組
5. こども・子育て施策における児童館の役割

第2章 川越市児童館の基本情報

1. 設置目的、政策目標
2. 施設概要
3. 事業の実施状況、利用状況
4. 近隣関連施設の整理
5. 本市児童館を取り巻く社会的動向

第3章 川越市児童館の現状把握

1. 各児童館の現状と特徴
2. 川越市児童館の現況調査結果
 - (1) 児童センターこどもの城の目視調査
 - (2) その他児童館の調査（文献調査等）
3. 運営担当者・利用者の意見聴取結果

第4章 川越市児童館のあり方

1. 各施策、現状から分析した児童館に求められる役割とサービス提供のあり方
2. 市内各公共施設の事業及び市内団体との連携

3. 運営手法
 - ・管理形態
 - ・運営主体
 - ・開館時間
 - ・利用料金

4. 各児童館の目指すべき方向性・整備方針

第5章 児童センターこどもの城の改修整備計画

1. 施設コンセプト及び施設整備の方向性
 - (1) 施設コンセプト
 - (2) 施設整備の方向性
2. 改修整備方針の検討及び整理
 - (1) 整備手法の比較検討
 - (2) 改修整備スケジュール
 - (3) 既存空間・機能の改修整備の方向性
 - ・プラネタリウム
 - ・広場
3. ゾーニング案（レイアウト図面含む）
 - ・施設設備の特徴や各ゾーンのターゲット層
 - ・概算事業費（施設整備、運営・維持）
 - ・物価上昇を見据えた概算事業費の検討
 - ・環境配慮、バリアフリー化など

資料編

- ・川越市児童館改修整備基本構想検討資料
- ・協議・会議議事録
- ・その他業務において作成した資料

第1章 川越市児童館改修整備基本構想の策定にあたって

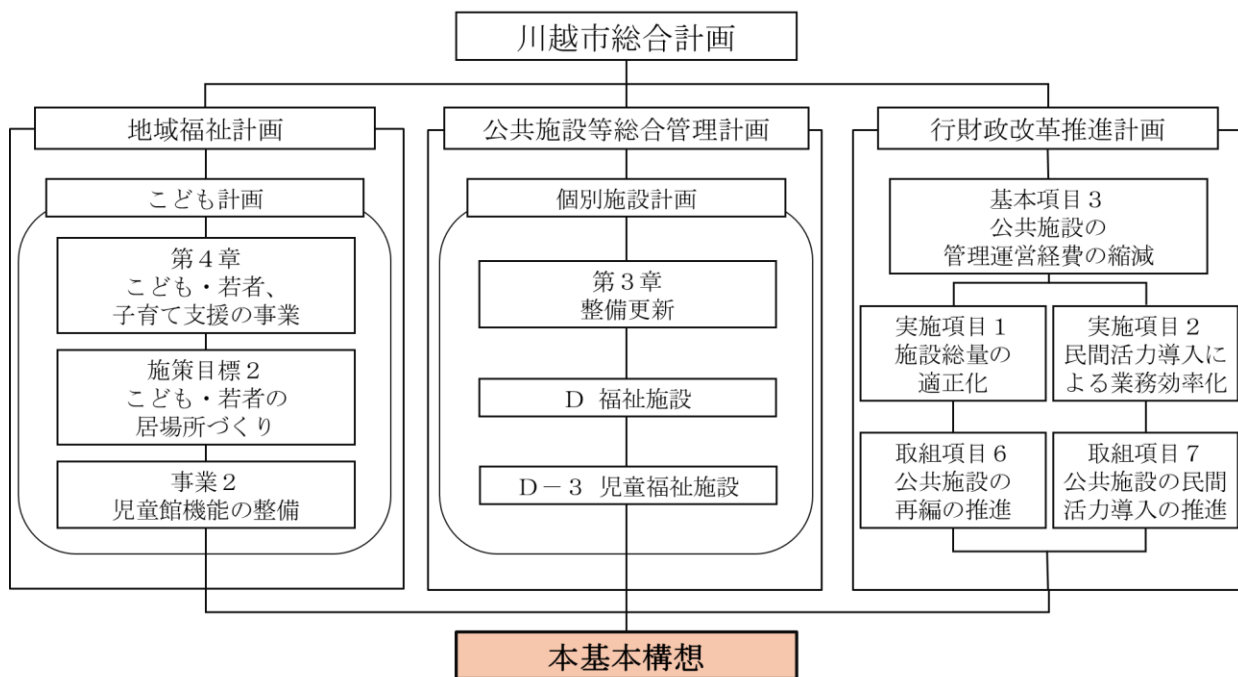
1. 本構想策定の背景と役割

近年、地域のつながりの希薄化、核家族化や少子化の進行、デジタル化の進展など、こどもを取り巻く環境の変化が顕著になってきています。また、こどもが抱える課題は複雑化しており、人々の価値観の多様化も進んでいます。このような状況において、こどもが安心して過ごせる「居場所づくり」の重要性がますます高まっています。

我が国においては、こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組み・政策を社会の真ん中に据えて総合的に推進していくため、2023（令和5）年4月、「こども基本法」が施行され、こども家庭庁が設置されました。また、同年12月には「こども大綱」及び「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定され、こどもの居場所づくりの重要性や方向性が示されました。これらを踏まえ、児童館ガイドラインが2024（令和6）年12月に改正され、2025（令和7）年4月1日から運用を開始しました。

本構想は、児童館のあり方やその役割に基づく整備方針を整理し、こども基本法に基づく市町村こども計画である「川越市こども計画」等との整合性を図るとともに、国の動向や市のこどもの居場所を取り巻く状況等を踏まえながら、今後の児童館の目指すべき姿を改めて見直し、具体的な取組みの方向性を示すものとして策定します。

本構想に係る関連計画との関係性は以下の体系図のとおりです。



2. 我が国の社会情勢

我が国では、多様な価値観・ライフスタイルの浸透により、若い世代の未婚化や晩婚化が進み、また、子育てしづらい社会環境・職場環境や、子育て・教育にかかる経済的負担の増加など、様々な要因が複雑に絡み合い、急速な少子化が進み続けているという社会情勢にあります。政府は、2030 年を少子化の分水嶺と捉え、2030 年代に入るまでの 6～7 年間を、少子化傾向を反転するラストチャンスとして、「異次元の少子化対策」を 2023 年に表明し、様々な政策を実施していますが、2024 年においても合計特殊出生率・出生数は減少し続けており、特に出生数は 70 万人を割り込むなど、少子化に歯止めが掛かっていない現状です。

3. こども・若者・子育て世帯を取り巻く環境の変化

少子化や高齢化の進行による社会構造・経済構造の変化に加え、子育て世帯の核家族化、地域のつながりの希薄化、共働き家庭の増加など、こども・若者・子育て世帯を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした社会的背景のもと、こどもや若者においては、自宅や学校に自分の居場所を持つことが難しくなっており、それに加え、ヤングケアラーの顕在化、不登校の児童・生徒の増加、経済的に困難な状況にある世帯におけるこどもたちへの貧困の連鎖等の社会課題が複雑化してきています。子育て世帯についても、子育てに対する不安や孤立感、依然として家事・育児の負担が女性に偏っている社会状況、仕事と子育てを両立できる環境が十分に整っていないなど、解決すべき課題が多く残されています。

4. 国が推進するこども・子育て施策の取組

このような状況において、こどもが安心して過ごせる「居場所づくり」の重要性がますます高まっています。我が国においては、こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組み・政策を社会の真ん中に据えて総合的に推進していくため、令和 5 年 4 月には、「こども基本法」が施行され、こどもを権利の主体として認識し、その意見を尊重することが基本理念として掲げられるとともに、こども家庭庁が設置されました。また、同年 12 月には「こども大綱」及び「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定され、こどもの声を聴き、こどもの視点に立ちつつ、官民が連携・協働して、こどもの居場所を作っていくことの重要性や方向性が示されました。

5. こども・子育て施策における児童館の重要性

児童館は、児童福祉法第 7 条にて、「この法律で、児童福祉施設とは、助産施設、乳児院、母子生活支援施設、保育所、幼保連携型認定こども園、**児童厚生施設**、児童養護施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、児童心理治療施設、児童自立支援施設及び児童家庭支援センターとする。」、および同法第 40 条にて、「**児童厚生施設は、児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする施設とする。**」と定義されています。

また、先述のこども・子育て施策の理念に基づき、令和6年12月3日付で「児童館ガイドライン」が改正されました。この新たな指針は、児童館が「こどもの居場所づくりにおけるコーディネーター」の役割を果たし、地域のこどもの居場所づくりを支援しつつ、児童館自体も多様なニーズに対応できる居場所として提供されることを明示しています。さらに、中・高校生世代の児童館利用については、開館時間等において、中・高校生世代が実際に利用可能な環境づくりに努めていくことを求める内容が追加されており、「18歳未満のすべてのこども」が利用できる施設であることが、児童館に求められています。

同ガイドラインでは、併せて児童館の施設特性として、以下の3点が明示されています。

- 拠点性：地域におけるこどものための拠点であり、こどもが自らの意思で自由に利用できる居場所であること。
- 多機能性：こどもが抱えるあらゆる課題に直接関わり、必要に応じて関係機関への橋渡しを行うことができる、福祉的な課題に対応する機能を持つこと。
- 地域性：地域の住民や関係機関と連携し、こどもの健全育成の環境づくりを地域全体で進めることができること。

第2章 川越市児童館の基本情報整理

1. 設置目的、政策目標、関係法令・計画

・設置目的及び事業

本市児童館の設置目的は、「川越市児童館条例」第1条において、「児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするため」と明記されています。同条例第3条では、これを実現するために、児童館が行う事業として、以下の3点が定められています。

- 個別的及び集団的な指導を通じ、児童の健康の増進と情操のかん養に関すること。
- 児童に関係する団体の育成に関すること。
- その他児童の健全な育成に必要な事業に関すること。

・政策目標

本市では、こども基本法に基づき、全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指す、「川越市こども計画」を令和7年3月に策定しました。本計画では、令和7年度から令和11年度までを計画期間と定め、基本理念に『全てのこども・若者が自分らしく輝き健やかに成長し、地域全体で子育てできるまち川越』を掲げています。同計画によると、この理念は「誰一人取り残さず、全てのこども・若者の権利を保障し、一人ひとりの最善の利益を第一に考える。そして、子育て当事者のほか、地域全体が一丸となって子育てを後押ししていく。」という新たに動き出す計画に対する本市の強い想い・決意が込められています。

特に、同計画の基本目標5「地域と社会でこども・若者、子育てを支える環境づくり」の施策目標2「こども・若者の居場所づくり」は、児童館の機能強化と直接的に関連しています。この目標では、川越市の3児童館について、「各児童館の特性を生かし、地域の高齢者と連携した異世代間交流や、外国籍市民との交流を深め、国際理解を促進する等、豊かな感性・情操を育む児童館事業を推進します。」と示されているほか、児童センターこどもの城については、「老朽化した施設・設備を改修するとともに、利用者ニーズによる屋内プレイエリアや、屋外広場の改修等を行い、若者も含めたこどもの居場所の機能としての役割に加え、誰もが利用しやすい快適な空間の創出を図ります。」と明示されています。これらの内容から、今後の川越市の児童館は、単なる児童の遊びの場に留まらず、こどもの居場所の機能としての強化を図るとともに、多様な世代やニーズに対応した施設として地域の中での役割を果たしていくことを目標として掲げています。

2. 施設概要

- ・施設の概要（敷地面積、床面積、建築時期、修繕履歴、主な設備等）

施設カルテ等による、各児童館施設の概要は以下の通りです。

種別	内容
施設名	児童センターこどもの城
外観	
所在地	川越市石原町 1 丁目 41-2
敷地面積	3,567 m ² うち建物敷地 : 1,959 m ² 広場・駐車場 : 1,608 m ²
延床面積	1,148.1 m ²
構造	RC2 階建
建築時期	1982 年度
修繕履歴	2011 年度 屋上防水・外壁改修工事等 2014 年度 空調設備改修工事
主な設備	・ホール、遊戯室、相談室、クラブ室、プレイルーム、 創作室、集会室、図書室、視聴覚室、屋外広場、プラネタリウム等 ・駐車場 14 台 ・駐輪場 80 台
運営体制	・直営（市職員＋委託） 市職員：館長（川越駅東口児童館と兼任） 委託：川越市施設管理公社
アクセス	・東武バス月吉町経由神明町車庫行「児童センター」降車 ・シャトルバス 20 系統「児童センター」降車 ・東武東上線川越市駅降車徒歩 20 分

種別	内容
施設名	川越駅東口児童館
外観	
所在地	川越市菅原町 23 番 10 クラッセ川越 4 階
敷地面積	770 m ² (クラッセ川越)
延床面積	388.11 m ²
構造	RC クラッセ川越 4 階
建築時期	2001 年度
修繕履歴	2021 年度 クラッセ川越冷暖房設備等改修工事
主な設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊戯室、集会室、図書室、ホール等 ・ 駐車場なし ・ 駐輪場 70 台
複合施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川越駅東口図書館 ・ 川越駅東口老人憩いの家 ・ 国際交流センター ・ 川越駅東口多目的ホール
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直営 (市職員＋委託) 市職員：館長 (児童センターこどもの城と兼任) 委託：川越市施設管理公社
アクセス	・ JR 川越線・東武東上線 川越駅降車徒歩 3 分

種別	内容
施設名	高階児童館
外観	
所在地	川越市大字藤間 27 番地 1
敷地面積	8,417 m ² (高階市民センター)
延床面積	349.77 m ²
構造	RC 高階市民センター1 階
建築時期	2007 年度
修繕履歴	-
主な設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊戯室、ホール等 ・ 駐車場 66 台 ・ 駐輪場 115 台
複合施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高階市民センター ・ 高階公民館 ・ 高階図書館
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直営 (市職員のみ) 市職員：館長、保育士、会計年度職員
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東武東上線新河岸駅より徒歩 10 分 ・ シャトルバス 30・31・33 系統「高階市民センター」下車

3. 事業の実施状況、利用状況

「令和6年版統計かわごえ」による、児童センターこどもの城の、過去5年間の実施状況・利用状況は以下の通りです。

令和2年3月3日から5月31日の間、及び令和2年12月28日から令和3年3月21日の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館していました。

令和2年6月2日から令和5年5月7日の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用人数が制限されていました。

児童センターこどもの城								
年	利用者 総数	児童館部門				天文部門		
		計	個人 任意	集団 指導	団体	計	プラネタ リウム	天体 観測室
令和2年	17,096	16,490	11,163	5,237	90	606	537	69
令和3年	16,110	15,233	9,834	5,356	43	877	836	41
令和4年	23,745	22,560	14,082	8,434	44	1,185	1,105	80
令和5年	38,122	36,255	24,721	11,478	56	1,867	1,843	24
令和6年	46,060	44,072	32,034	12,021	17	1,988	1,988	-

(単位：人)

「令和6年版統計かわごえ」より

川越駅東口児童館の、過去5年間の実施状況・利用状況は以下の通りです。

令和2年3月3日から5月31日の間、及び令和2年12月28日から令和3年3月21日の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館していました。令和2年6月1日から令和5年5月7日の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用人数が制限されていました。令和3年11月30日から令和4年2月1日の間、クラスセ川越冷暖房設備等改修工事のため、休館していました。

川越駅東口児童館				
年	利用者総数	個人任意	集団指導	団体
令和2年	10,845	8,479	2,356	10
令和3年	5,413	4,365	1,048	-
令和4年	8,300	6,693	1,607	-
令和5年	15,770	13,123	2,647	-
令和6年	23,674	20,426	3,248	-

(単位：人)

「令和6年版統計かわごえ」より

高階児童館の、過去 5 年間の実施状況・利用状況は以下の通りです。

令和 2 年 3 月 3 日から 5 月 31 日の間、及び令和 2 年 12 月 28 日から令和 3 年 3 月 21 日の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館していました。

令和 2 年 6 月 1 日から令和 5 年 5 月 7 日の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用人数が制限されていました。

高階児童館				
年	利用者総数	個人任意	集団指導	団体
令和 2 年	15,318	12,651	2,584	83
令和 3 年	14,456	12,126	2,292	38
令和 4 年	20,208	16,564	3,625	19
令和 5 年	32,360	25,913	6,369	78
令和 6 年	42,374	33,337	8,761	276

(単位：人)

「令和 6 年版統計かわごえ」より

4. 近隣関連施設の整理

各児童館から徒歩 15 分圏内にある関連施設（保育施設・学童保育施設・学校・公民館）についての一覧です。

児童センターこどもの城近隣の関連施設は以下の通りです。

施設名	用途
月越小学校	市立小学校
星野学園小学校	私立小学校
星野学園中学校	私立中学校
星野学園高等学校	私立高等学校
山村学園高等学校	私立高等学校
月越学童保育室	学童保育室
今成保育園	公立保育園
くつきいず保育園	民間保育園
めだか保育園	民間保育園
たむら保育園	民間保育園
第二ひつじ幼稚園	私立幼稚園
川越双葉幼稚園	私立幼稚園

川越駅東口児童館近隣の関連施設は以下の通りです。

施設名	用途
埼玉県立川越工業高校	公立高等学校
川越第一中学校	公立中学校
仙波小学校	公立小学校
仙波学童保育室	学童保育室
仙波町保育園	公立保育園
新宿町保育園	公立保育園
ミルキーホーム川越園	民間保育園
おひさま保育園川越	民間保育園
ねむの木保育園	民間保育園
秀学会川越クレアモール保育園	民間保育園
増美保育園川越駅前分園	民間保育園
増美保育園川越	民間保育園
増美保育園本川越分園	民間保育園
ヤオコー川越保育園	民間保育園
ひつじ保育園	民間保育園
おひさま保育園川越富士見町	民間保育園
レイモンド川越保育園	民間保育園

高階児童館近隣の関連施設は以下の通りです。

施設名	用途
高階中学校	中学校
高階小学校	小学校
高階南小学校	小学校
高階学童保育室	学童保育室
高階南学童保育室	学童保育室
高階保育園	公立保育園
音羽の森保育園	民間保育園
あそびのてんさい新河岸保育園	民間保育園
あそびのてんさい新河岸第2保育園	民間保育園
まーぶるきらり保育園	民間保育園
まーぶる保育園しんがし園	民間保育園
あそびのてんさい新河岸第三保育園	民間保育園
おさるのゆりかご	民間保育園
藤原白百合幼稚園	私立幼稚園
高階幼稚園	私立幼稚園
あおば幼稚園	私立幼稚園
高階南公民館	公民館

児童センターこどもの城近隣の関連施設数は、

小学校	: 1 施設
学童保育室	: 1 施設
保育園（市立・私立合わせて）	: 4 施設
幼稚園	: 2 施設
合計	: 8 施設

と、後述の他 2 児童館と比較すると少なくなっています。また、立地しているのは小学生以下のこどもが利用する施設に限られています。

川越駅東口児童館の近隣には、

高等学校	: 1 施設
中学校	: 1 施設
小学校	: 1 施設
学童保育室	: 1 施設
保育園（市立・私立合わせて）	: 13 施設
合計	: 17 施設

と、多くの関連施設が立地しており、乳幼児から高校生まで多年代にわたるこどもに利用されています。

高階児童館は、

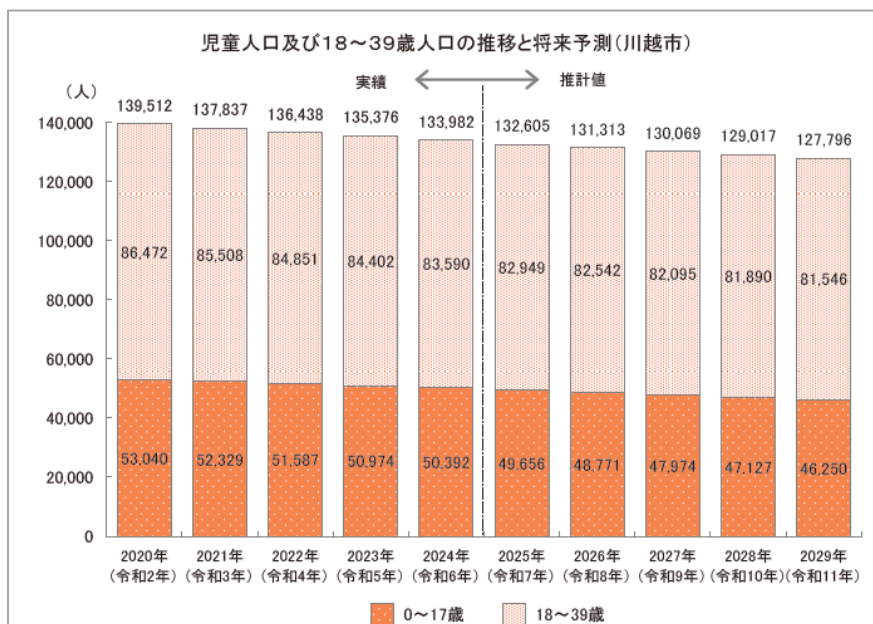
中学校	: 1 施設
小学校	: 2 施設
学童保育室	: 2 施設
保育園（市立・私立合わせて）	: 8 施設
幼稚園	: 3 施設
公民館	: 1 施設
合計	: 17 施設

と、こちらも多くの関連施設が近隣に立地しています。中でも、同じ高階市民センター内に併設されている高階公民館も含めた公民館と、小学校が近隣に 2 施設立地しているのは大きな特徴です。

上記をまとめると、川越駅東口児童館・高階児童館は、近隣に学校や保育施設が多く存在しており、今後も周辺からの多年代のこどもによる利用が想定されます。一方で、児童センターこどもの城は、近隣に学校や保育施設が少なく、特に現状のままだと中・高校生の利用しづらい環境にあるといえます。今後児童センターこどもの城が、中・高校生世代を含めた、18 歳未満のすべてのこどもの居場所としての児童館の役割を果たしていくためには、市内全域から多年代のこどもが集まるような、魅力ある機能・設備を整えていく必要があると予測されます。

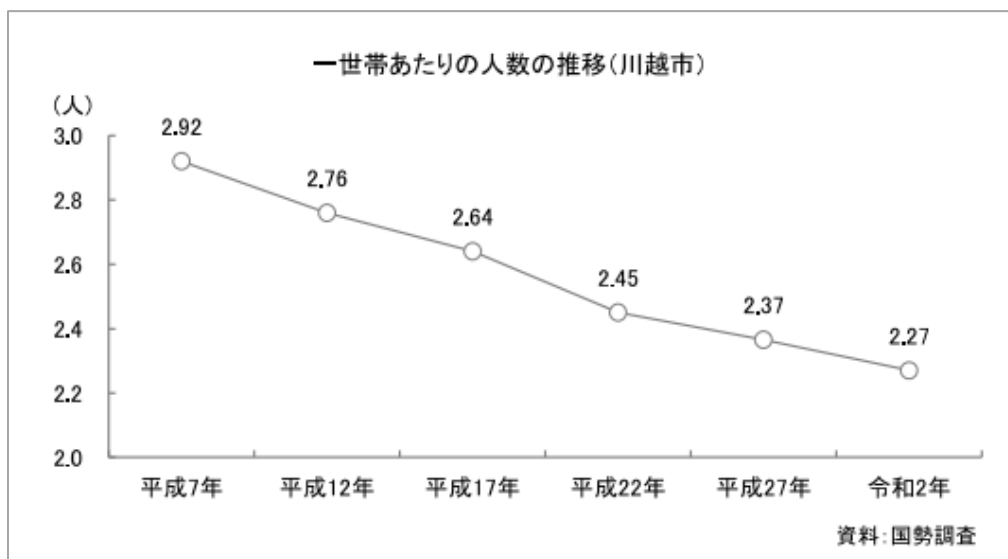
5. 本市児童館を取り巻く社会的動向

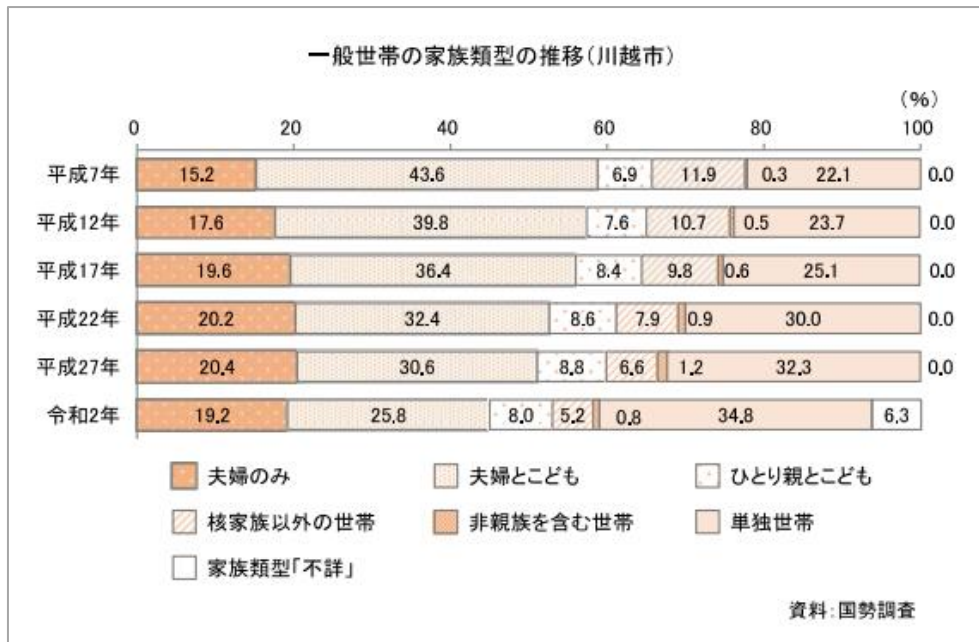
「川越市こども計画」によると、川越市の総人口は令和2年（2020年）以降、微減傾向にあります。「川越市こども計画」内の人口構成データを見ると、年少人口（0～14歳）は減少し、高齢者人口（65歳以上）は増加しており、少子高齢化が進行している状況です。特に、児童館の主要な利用者である0歳から17歳までの児童人口は、令和6年（2024年）の50,346人から、令和11年（2029年）には46,128人まで減少する見込みです。



「川越市こども計画」より

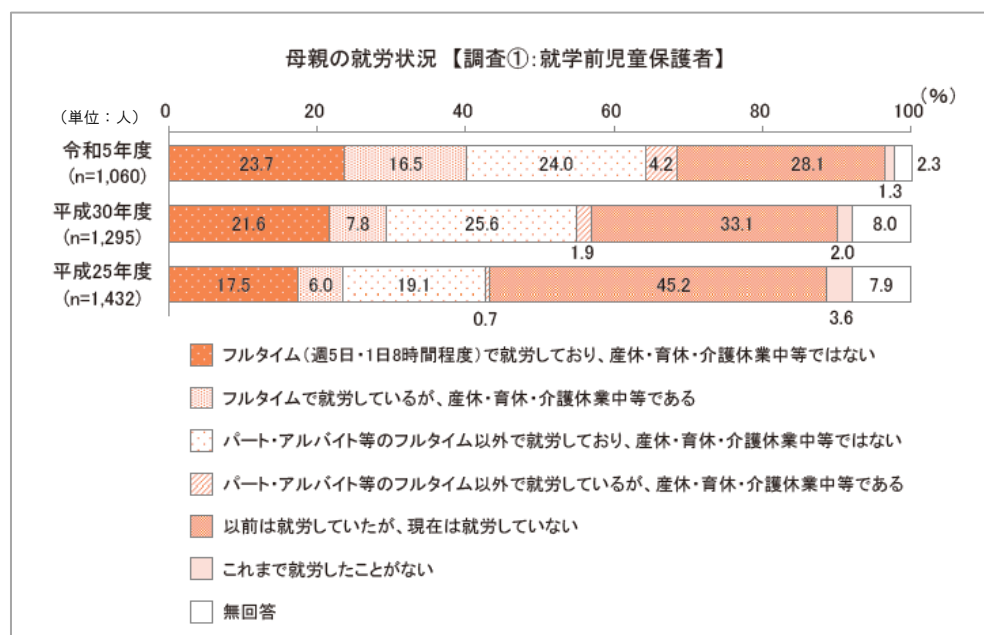
また、世帯状況を見ると、一世帯あたりの人数は減少傾向にあり（令和2年時点で2.27人）、核家族世帯（夫婦とこどもの世帯）の割合が平成7年と比較して約4割減少する一方、単身世帯の割合は約5割増加しており、こどものいる世帯の割合は減少しています。

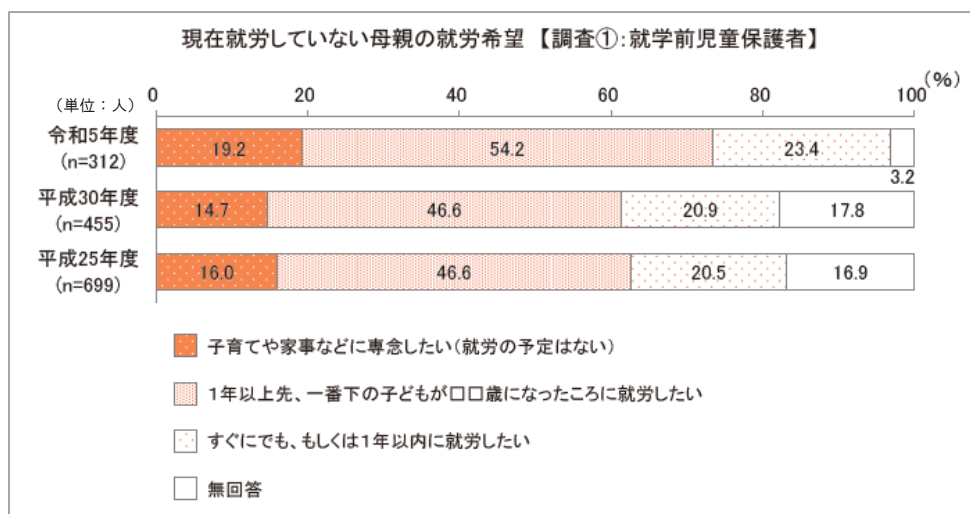




「川越市こども計画」より

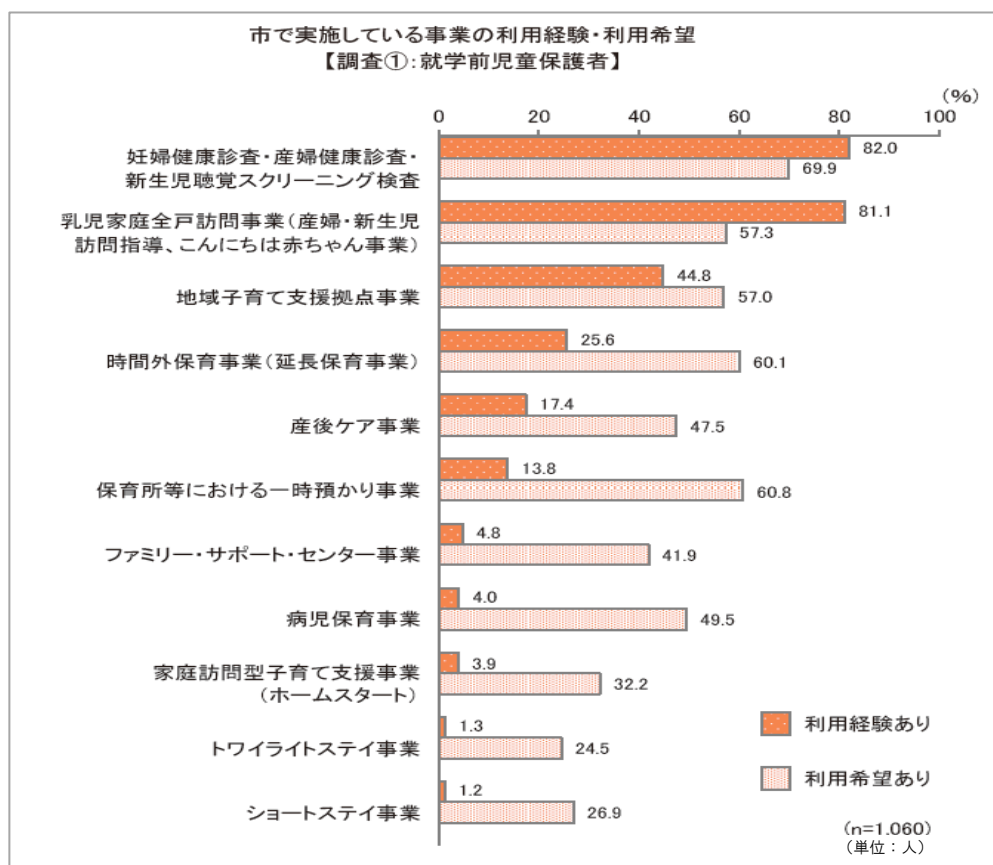
「川越市こども計画」策定にあたり実施された「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」によれば、保護者の就労形態の多様化が進んでいることが確認されています。令和5年度時点の調査では、就学前児童保護者を対象にしたアンケートにて、フルタイムで就労している母親の割合が40.2%に達し、10年前と比較して16.7ポイント増加しています。また、現在非就労の母親も77.6%が就労を希望しているという結果です。





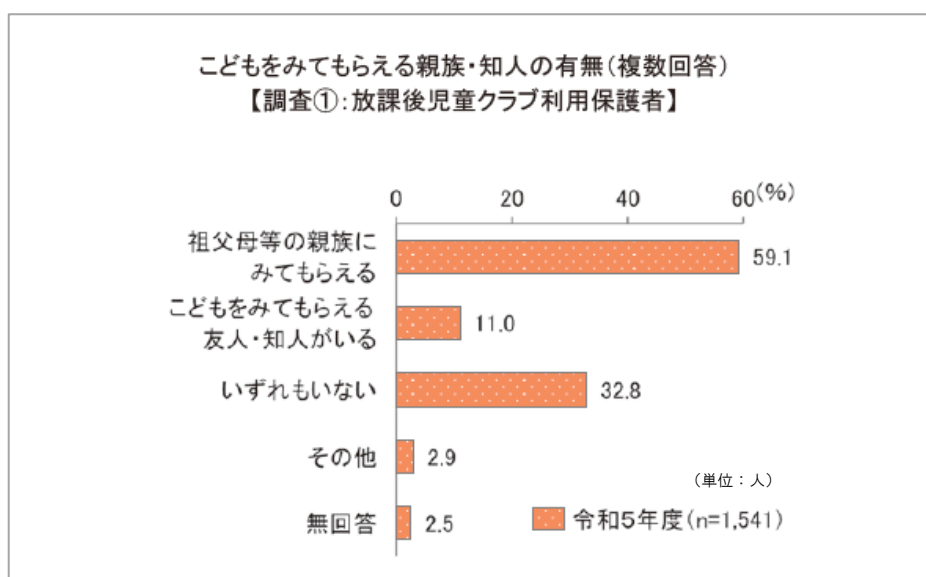
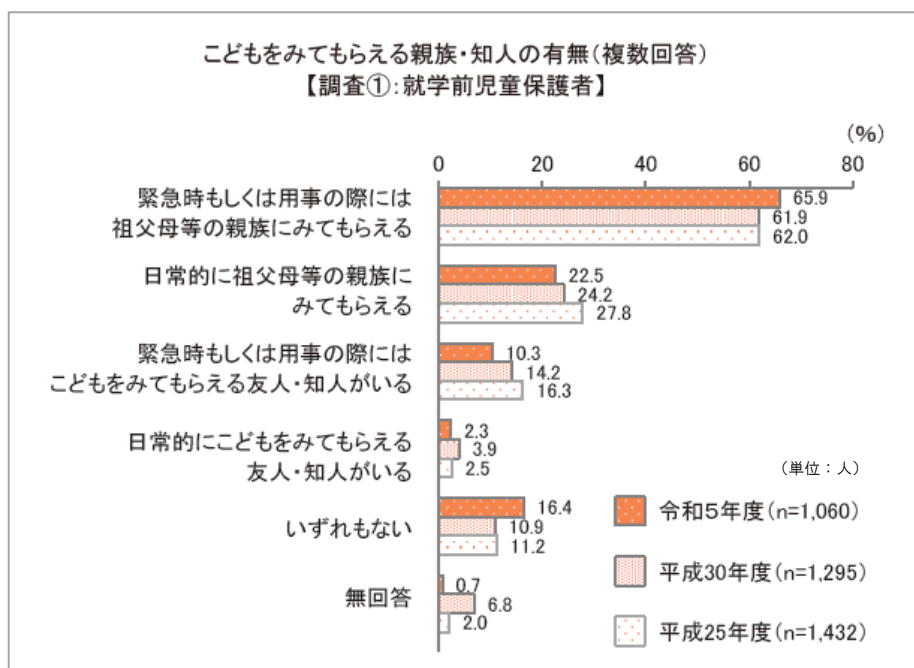
「川越市こども計画」より

このような就労形態の変化に伴い、育児支援ニーズも多様化しており、同調査での、市で実施している子育て支援事業の利用希望についての回答では、「保育所等における一時預かり事業」の利用希望が 60.8%、「時間外保育事業（延長保育事業）」の利用希望が 60.1%と、高い潜在的需要が示されています。



「川越市こども計画」より

一方で、祖父母等の親族や知人にこどもをみてもらえる家庭は減少傾向にあり、就学前児童保護者では、16.4%が「いずれもない」と回答しており、10年前と比較して5.2ポイント増加しています。また、放課後児童クラブ利用保護者では、「いずれもない」と回答した人が32.8%と、全体の1/3を占める結果となっています。

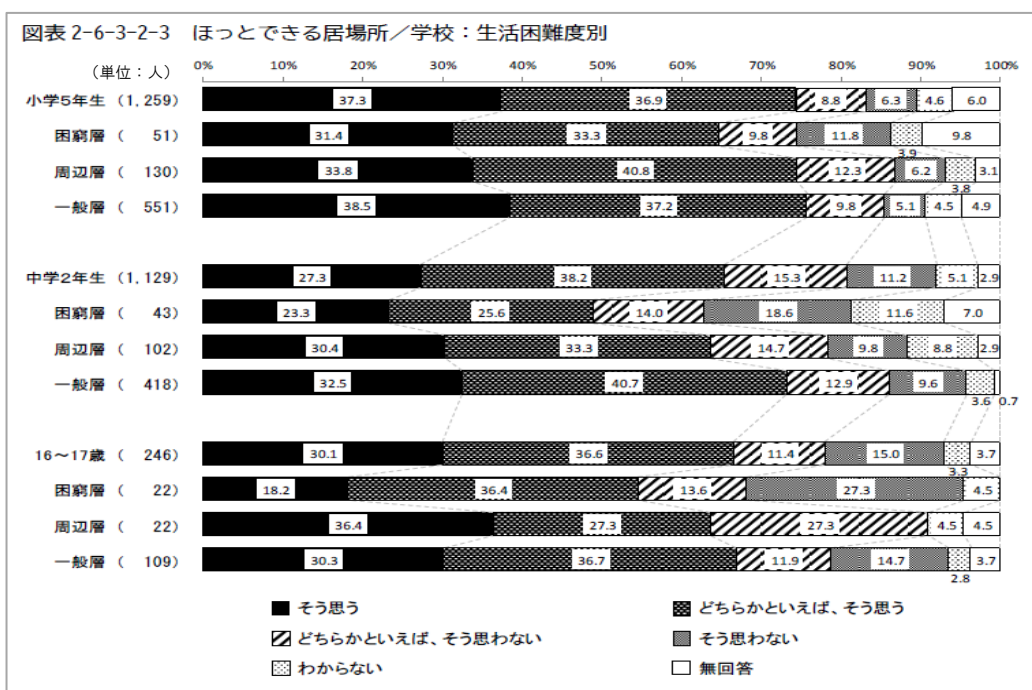
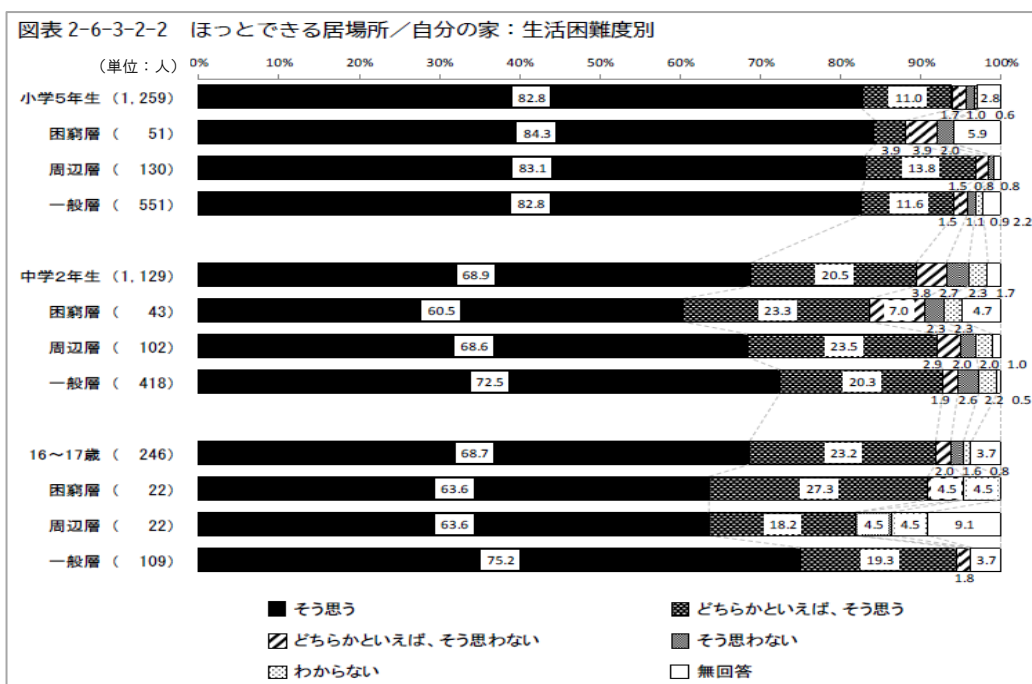


「川越市こども計画」より

これらのデータから、市内の子育て家庭においては、多様な育児支援ニーズに応えることができる、地域や行政による育児支援サービスを求めている声が多くなっていることが分かり、今後の児童館がこどもの遊び場としてだけでなく、子育て家庭の孤立を防ぎ、多様な保育ニーズに応えることができるような児童福祉施設としての役割も果たしていく必要があると考えられます。

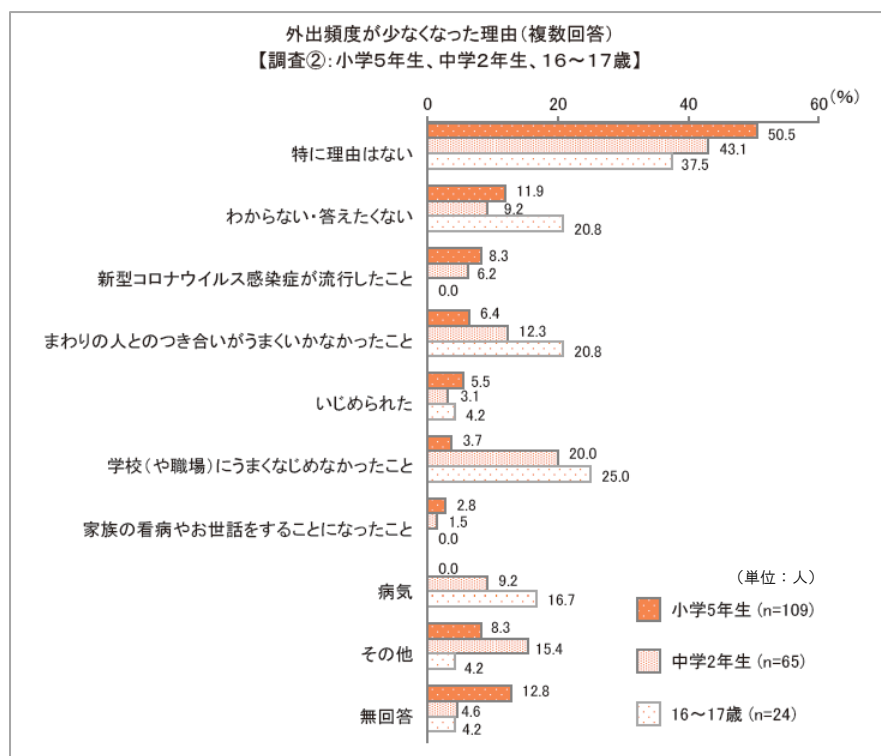
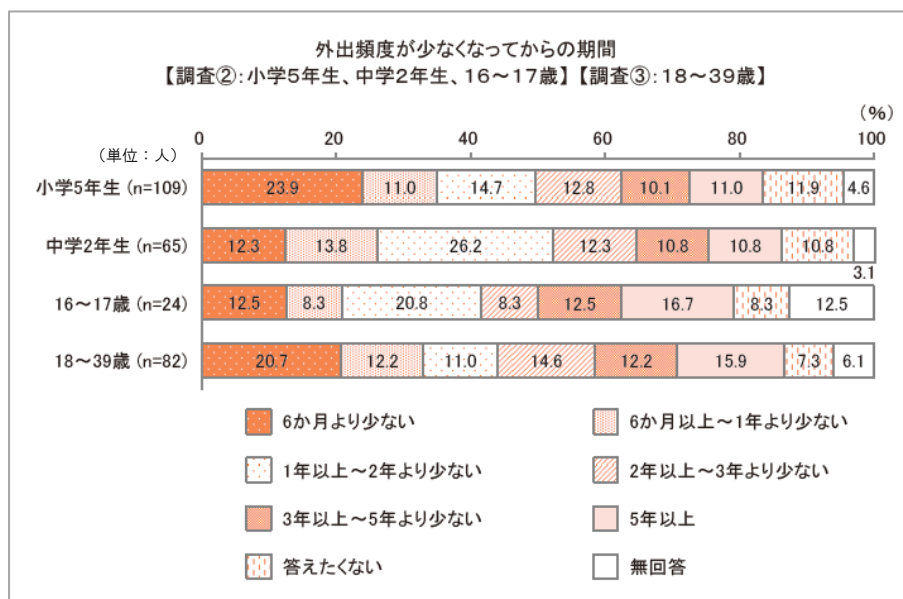
また、同じく「川越市こども計画」策定にあたり実施された「子ども・若者の意識と生活に関する調査」では、以下の若年層の潜在的な社会的課題が顕わになっています。

●居場所の課題：中学2年生の26.5%、16歳から17歳の26.4%が「学校がほっとできる居場所とは思わない・どちらかといえば、そう思わない」、また中学2年生の6.5%、16歳から17歳の3.6%が「自分の家がほっとできる居場所とは思わない・どちらかといえば、そう思わない」と回答しています。これは、学校や家庭以外に安心して過ごせる第三の居場所（サードプレイス）の必要性を示しています。



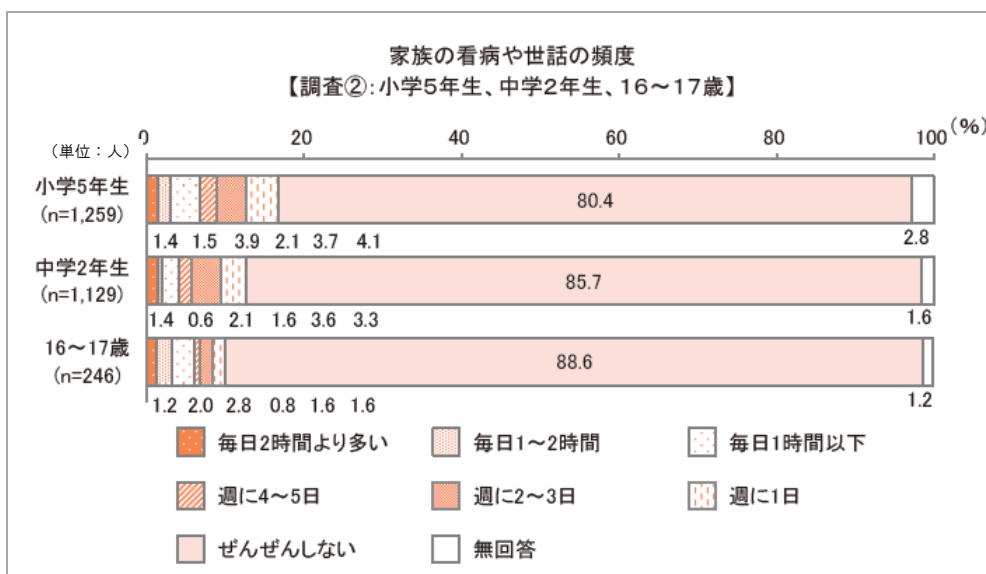
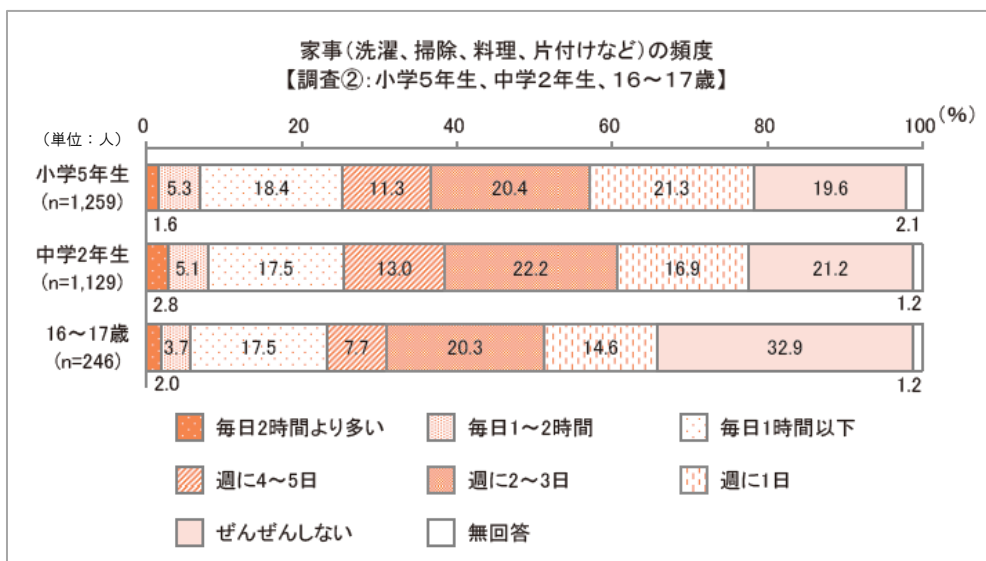
「子ども・若者の意識と生活に関する調査」より

●ひきこもり・不登校：外出頻度が少なくなつてからの期間が「6か月以上」と回答したこども・若者の割合は、小学5年生で59.6%、中学2年生で73.9%、16歳から17歳で66.6%と長期化の傾向がみられます。この主な理由として、中学2年生で20.0%、16歳から17歳では25.0%が「学校（や職場）にうまくなじめなかったこと」が挙がっています。これは、学校生活で困難を抱えたこども・若者に対する、寄り添った支援体制の構築が喫緊の課題であることを示しています。



「川越市こども計画」より

●ヤングケアラー：中学2年生の7.9%、16歳から17歳の5.7%が「毎日1時間以上の家事」を、また中学2年生の2.0%、16歳から17歳の3.2%が「毎日1時間以上の家族の看病や世話」を行っているとの回答がありました。これは、こども・若者が過度な負担を抱えている現状を示しており、彼らの社会生活や健やかな成長を支援する体制の構築が不可欠であると考えられます。



「川越市こども計画」より

上記の課題は、学校や家庭といった従来のこどもの居場所では対処が困難な問題であり、今後の本市の児童館は、これらの潜在的な課題に 대응べく、遊びや交流の場に加え、学習支援、相談機能等を備えた、多機能なこどもの居場所となっていくことが求められていると考えられます。

第3章 川越市児童館の現状把握

1. 各児童館の現状と特徴

川越市内の各児童館の現状と特徴については、以下の通りです。

施設名	現状	特徴
児童センター こどもの城	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数は市内の児童館の中で一番多い。 ・利用者のうち、集団指導が占める割合が、他児童館より高い。 ・開館から40年以上経過しており、設備の老朽化が進行している。 ・アナログ式のプラネタリウムを有しているが、部品が生産終了している為、故障した場合の修理が困難。プラネタリウム利用者数は減少傾向にある。 ・安全性の都合で、1階ベランダ ・屋上は封鎖されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市児童館では最大の規模を有する。 ・開館以来からプラネタリウム・天体観測室を有している。 ・屋外広場・図書室等の設備を有している。 ・鉄道の駅からは離れており、駐車可能台数が14台であるため、遠方からのバス以外の来館方法に制限がある。 ・他の児童館と比較すると、近隣に学校や保育園等の関連施設は少ない。
川越駅東口 児童館	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数は市内の児童館の中で一番少ない。 ・利用者の8割以上が個人任意での利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラッセ川越4階に開設されている。 ・クラッセ川越内には、川越駅東口図書館や国際交流センター、多目的ホール等が併設されている。 ・川越駅近くに立地しており、市内外問わず来館しやすい。 ・近隣に小・中学校・高等学校や保育園等の関連施設が多い。
高階児童館	<ul style="list-style-type: none"> ・団体での利用が多い。 ・現在開館から18年が経過しており、今後20年目改修が必要になる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高階市民センター内に開設されている。 ・高階市民センター内には、高階図書館や高階公民館が併設されている。 ・新河岸駅から徒歩10分の距離であり、駐車場・駐輪場の台数も多く、来館手段は多い。 ・近隣に小・中学校や保育園等の関連施設が多い。

2. 川越市児童館の現況調査結果
 - (1) 児童センターこどもの城の目視調査
 - (2) その他児童館の調査（文献調査等）
3. 運営担当者・利用者の意見聴取結果
（別紙結果概要参照）

第4章 川越市児童館のあり方

1. 各施策、現状から分析した児童館に求められる役割とサービス提供のあり方

国や本市の各施策で求められている児童館の役割は、以下の通りであると考えられます。

- 児童福祉法、川越市こども計画：児童の健全育成と「子どもの最善の利益」の追求、地域の子育て家庭への切れ目のない支援と不安感の緩和。
- 個別施設計画：公共施設の複合化・多機能化、地域福祉・コミュニティ機能の強化。

それぞれの役割に対し、以下のように各児童館を割り当て、機能を配置していくことで、有効なサービスを提供することが可能であると考えられます。

- 児童の健全育成と「子どもの最善の利益」の追求：広い規模を有し、古くから本市のこどもの居場所としての役割を担っていた、児童センターこどもの城にて、広域的なこどもの居場所を提供する。
- 地域の子育て家庭への切れ目のない支援と不安感の緩和：利便性が高く訪れやすい場所にある、川越駅東口児童館にて、子育て支援のアクセスポイントを提供する。
- 公共施設の複合化・多機能化、地域福祉・コミュニティ機能の強化：地域交流の中心地である高階市民センター内に位置する高階児童館にて、多世代交流と地域コミュニティ活動を促進する空間とプログラムを提供する。

2. 市内各公共施設の事業や市内団体との連携

各児童館において、地域特性を活かしながら、他の公共施設や団体との連携を図り、多様な役割・機能を発揮していくことで、より充実した児童館運営に努めます。

3. 運営手法

- ・管理形態
- ・運営主体
- ・開館時間
- ・利用料金

4. 各児童館の目指すべき方向性・整備方針

市内に所在している3つの児童館は、それぞれの立地・機能・複合施設としての特性を活かし、市全体の児童健全育成と子育て支援の質の向上を目指します。

児童センターこどもの城は、子どもの居場所としての機能の拡充を図り、施設改修の投資効果の最大化を図ります。

川越駅東口児童館は、利便性の高さを活かした子育て支援や多世代交流サービスの充実を図り、高階児童館は地域密着を軸とした事業展開の充実を図ります。

施設名	目指すべき方向性	整備方針
児童センター こどもの城	児童センターとして市内全域からの集客力を持つような活動を提供するとともに、こどもの多様なニーズに応える活動・体験の核となる「未来を育む交流拠点」としての役割を強化。	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの居場所の充実：小学生以下向けの広場・遊び場や、中高生向けの学習スペースのような、幅広い年代のこどもに向けた多機能な居場所の確保を検討します。 ・アクティブな活動支援：中高生の学校外での部活動・趣味活動を支援する機能の整備を検討します。
川越駅東口 児童館	駅前という高い交通利便性と、複合施設の特性を活かし、身近で利便性の高い子育て支援と、市民の多目的利用を推進する「利便性の高い地域連携拠点」としての役割を強化。	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児親子向け機能の充実：駅前という立地を活かし、保護者が利用しやすい広場機能を充実させ、子育て相談窓口としての役割の強化を検討します。 ・複合施設の特性を活かしたとの他施設との一体的な利用促進：同一施設内にある公共施設と連携し、複合施設としての相乗効果を発揮できるスペースの活用を検討します。
高階児童館	市民センターとの複合施設としての特性を最大限に活かし、地域における多世代の交流促進を担う「地域に生きる児童館」としての役割を強化。	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流機能の強化：市民センター利用団体（高齢者等）との交流イベントを促進するための取組を検討します。 ・地域密着型子育て支援：地域住民の協力も得ながら、きめ細かな子育て支援と地域に開かれた活動の推進を検討します。 ・複合施設としての相乗効果：隣接施設との連携による、地域活動の取組の強化を検討します。

第5章 児童センターこどもの城の改修整備計画

1. 施設コンセプト及び施設整備の方向性

- (1) 施設コンセプト
- (2) 施設整備の方向性

2. 改修整備方針の検討及び整理

- (1) 整備手法の比較検討
- (2) 改修整備スケジュール
- (3) 既存空間・機能の改修整備の方向性
 - ・プラネタリウム
 - ・広場

3. ゾーニング案（レイアウト図面含む）

- ・施設設備の特徴や各ゾーンのターゲット層
- ・概算事業費（施設整備、運営・維持）
- ・物価上昇を見据えた概算事業費の検討
- ・環境配慮、バリアフリー化など

資料編